

愛する土地での復興を支えます

能登半島での地震や豪雨災害によってお亡くなりになられた方々に、深い哀悼の意を捧げるとともに、被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、発災直後からAAR Japan[難民を助ける会]の支援活動を支えてくださった多くの皆さまに、心より御礼申し上げます。

2024年11月、震災からまもなく1年になろうとする能登地方の被災地を訪れました。道路や建物の損壊が今なお残る光景を目の当たりにし、復興への道のりがいかに険しく、そして長いものであるかを改めて感じました。しかし、その厳しい現実の中でも、直接お話しした皆さまの「生まれ育った地元への深い愛着」と、「この地で、再び生活を立ち上げていく」という強い思いに触れ、胸が熱くなりました。

AARはこの一年間、困難な状況下にある人々の中でも、特に弱い立場にある方々へ、長期的な視点をもって支援を届けてまいりました。これからも、復興の道から取り残される人がいないよう、被災地を支え続けていきたいと思えます。

能登半島の皆さまが、愛する土地で復興を遂げられるよう、今後も全力で活動に邁進いたします。

引き続きAARの活動をお支えくださいますようお願い申し上げます。

AAR Japan[難民を助ける会]
理事長 堀江 良彰



AARの能登半島での支援

1 炊き出し



認定NPO法人ピースプロジェクト(代表:加藤勉AAR理事)と協力し、寒さや断水、停電の中で避難生活を送る方々を支えるため、栄養バランスや食べやすさに配慮した食事を提供しました。

また、地元のシェフグループや、炊き出しを行う協力団体への調理器具の提供や材料費支援などを通じ、計17万食を提供しました。

2 緊急支援物資の配付

水や食料、衣類、衛生用品、灯油などを避難所や在宅避難者、高齢者施設などに届けました。長引く断水の中で、携帯トイレや無水シャンプー、体拭きシートなどが重宝されました。

多くの企業が物資を提供していただき、配付には地域の方々やボランティアにご協力いただきました。



3 福祉施設/障がい者への支援



障がい団体のきょうされんや、日本障害者フォーラムと協力し、発災当日から障がい者の被災状況について情報を収集しました。

また、1月3日から障がい福祉施設を回り、各所で必要とされている物資を届けました。その後も、被害を受けた施設が運営を再開し、利用者が工賃を得られるよう、設備の新設・修繕や資機材の提供など、計13施設を支援しました。

2024年 1月 2月 3月 4月

1月1日 地震発生

1 炊き出し	2 緊急支援物資の配付	3 福祉施設の運営再開支援	3 障がい者の個別支援
4 出張マッサージ	4 出張マッサージ	4 お風呂カー入浴支援	4 輪島市金蔵地区の自主避難所の井戸
5 外国人被災者への物資配付	4 出張マッサージ	4 生活再建のための支援制度活用講座	6 仮設入居者への家電提供



【被害状況】

能登半島地震によって亡くなられた方は457人、行方不明は1人。豪雨によって、全壊6,196棟を含む計9万7,248棟が被害

4

コミュニティ支援



「お風呂カー」を使った入浴支援、理学療法士などによる出張マッサージ、弁護士による相談会や避難者同士の交流会など、細かなニーズに応えるさまざまな支援を行いました。



5

外国人被災者支援



言葉の問題や生活習慣の違いから、支援情報へのアクセスや避難所生活が難しい外国人被災者への支援にも注力。自宅へ支援物資を届けたほか、協力団体が行う日本語教室や震災ストレスの解消を目的とした交流イベントの開催を支援しました。活動を通じて、災害に備えた地域とのつながりをつくっています。

6

仮設支援



石川県志賀町と中能登町の仮設住宅に入居した約520世帯に、電子レンジや掃除機などの生活家電を提供しました*1。

また、仮設住宅の集会所では、交流サロン「やわやわ*2喫茶」を開催し、入居者同士の交流を促進しています。

※1 この支援は、ジャパン・プラットフォーム(JPF)の助成を受けて実施しています

※2 石川県の方言で「ゆっくり」「無理せずに」という意味

5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月



(家屋保全、移動支援など)

復旧/洗濯機支援



4 金蔵地区の住民交流イベント支援 & 相談会

5 外国人向け日本語教室の運営支援、交流イベント

1 炊き出し

2 緊急支援物資の配付



9月21日 豪雨災害発生

9月22日緊急支援チーム現地入り



6 仮設住宅交流支援「やわやわ喫茶」

明の方は2人。奥能登豪雨によって亡くなられた方は15人。負傷者は、地震と豪雨を合わせて1,301人。住宅は地震を受け、公共の建物や店舗なども3万5,507棟が半壊以上の被害を受けました。(2024年12月3日石川県発表)



歩幅に合わせた 支援がありがたい

七尾市初の就労継続支援A型事業所「LABO(ラボ)」を2022年10月に開設しました。A型事業所は、障がい者に最低賃金を保障する経営的に難しい仕事ですが、和倉温泉のベッドメイクや浴場清掃の仕事が高い評価を得て、運営は順調でした。その矢先の地震。作業所は損壊し、職員も作業員(11人)も被災。和倉温泉の仕事は途絶え、災害ゴミの処理や草刈りなどでしのいでいます。

震災直後AARに「困り事は?」と聞かれた時、知らない人に何を言えばいいのか戸惑いました。でも地元の私たちですら危険で行けない奥能登に、AARは支援物資を持って向かった。どうしていいかわからない時に、「熊本地震の時はこうでした」とか補助金の仕組みを教わり、本当に助かりました。こちらの

歩幅に合わせてくれる支援が、本当に有難かったです。

一般社団法人
ななお・なかのと就労支援センター
センター長 木谷 昌平さん

七尾市周辺には福祉避難所が少なく、やむなく在宅避難した障がい者が大勢います。避難所に水を取りにくいにしても、高齢者や障がい者は遅れがち。次の災害に備え、AARの支援で作業所の床をフローリングに張り替え、バリアフリートイレも設置して、福祉避難所としても使えるよう改装中です。

2024年11月、石川県七尾市で
AARの支援で床を
張り替え中の「LABO」



明日のために 能登か

災害時の外国人支援は、七尾市国際交流協会にとって初めての経験でした。AARと外国人の方々を訪ねて回り、初めてニーズを知りました。最初は水や食料、給水用の10リットルのポリタンクを配りました。直接顔を合わせることで、「電気や暖房が止まってとても心細かった」と話してくれました。日本人だって心細かったのに、言葉のわからない彼らはどんなに不安だったでしょう。能登半島は人口が減り、企業は技能実習生に来てほしいと必死です。それなのに災害時に支援が届かないのは大問題。石川県国際交流協会は数カ国語で情報発信していましたが、それが届いていませんでした。人のつながりができていなかったのです。

七尾市国際交流協会には災害時に即動かせる人手や資金がありません。AARにご寄付をしてくださった方々の気持ちに感謝するばかりでした。秋からは外国人の方々に能登の自然や文化を知ってもらうイベントを開催しています。外国人同士も互いに知り合い、情報交換することで防災に役立ちます。七尾には約800人の外国人がいますが、まだつながっていない人も多い。これからもAARと活動していきたいと思っています。

外国人との 「つながり」を

七尾市国際交流協会
理事長 大星 三千代さん

外国人被災者の心身のリフレッシュを
目的に行った野外交流会
=2024年11月、石川県能登町で



地震発生後、1月4日から7月末まで避難所で炊き出しを続けました。次のことを考え始めた矢先、町野町は死者3人を出す大雨に襲われました。炊き出しを復活し、10月末まで続けました。この1年、それまでの人生よりも多くの涙を流しました。でも、AARを含め全国から支援をいただき、悪い事ばかりではなかったと、自分を励ましています。

地震発生時には妻子と七尾市の商業施設にいました。車中で一泊し、家族を妻の実家の大阪に送り届け、発電機などを調達して3日早朝、輪島に向かいました。大渋滞のうえ、最後の5キロはがけ崩れで通行できず、深夜に歩いて帰宅しました。

炊き出しは多い時で朝晩450食を用意しました。お弁当も有難いですが、栄養も偏るし、温かいものは何より力になる。地元の料理人仲間4人で協力し、大きな避難所を拠点に、小さな避難所でも炊き出しできる体制を作りました。民間ならではの、臨機応変さを発揮できたと思います。

AARの支援と協力で、一般社団法人日本サステナブル・レストラン協会が実現させた人件費の支援は、本当に役立ちました。生活のために料理人が地元を離れてしまえば、炊き出しもできない。この仕組みを今後の災害で活かせるよう提言していくつもりです。

温かい炊き出し 地元と民間の力で



輪島市町野町で「日本料理 富成」を営むシェフ
富成 寿明さん



避難所での炊き出し準備を行う
富成さん(右)とボランティア
2024年5月、石川県輪島市で

らの伝言

「震災後は車で1週間、それから避難所の段ボールベッドで4カ月ほど過ごしました。5月に仮設に入れたけど、四畳半二間、六畳一間に夫と息子夫婦の4人だから狭くて。隣に響くので声も思うように出せません」

志賀町の仮設住宅「とき第4団地」に入居する藤田静子さんがそう語ると、同じ団地の松田和子さんが「お父ちゃんとケンカもできん!」と一言。周囲から「ほんとや」と笑い声が上がりました。石川県によると、11年半ばまでに完成した仮設住宅は約6,600戸。当初は知らない人同士で会話もなかったといいます。AARは仮設の入居者に家電を提供したほか、入居者の交流会「やわやわ喫茶」を開催しています。藤田さんは「狭い部屋の中だと孤独だけど、ここなら話もできるし、笑い声も出せます」。同団地の表和枝さんは「みんな家をなくした、同じ境遇ですからね。ただ、ずっと部屋に閉じこもっている人もいて心配です」と話します。

生活再建を果たすまで、心と体の健康を保つ術が模索されています。

被災者交流イベント
「やわやわ喫茶」の参加者の皆さん



草木染めに取り組んだ
やわやわ喫茶の皆さん
=2024年10月、
石川県志賀町で



仮設の暮らし 笑いと健康を

あなたのこと、忘れてないよ

国内災害担当
堀尾 麗華



「やわやわ喫茶」の利用者と話す堀尾
=2024年11月、石川県志賀町で

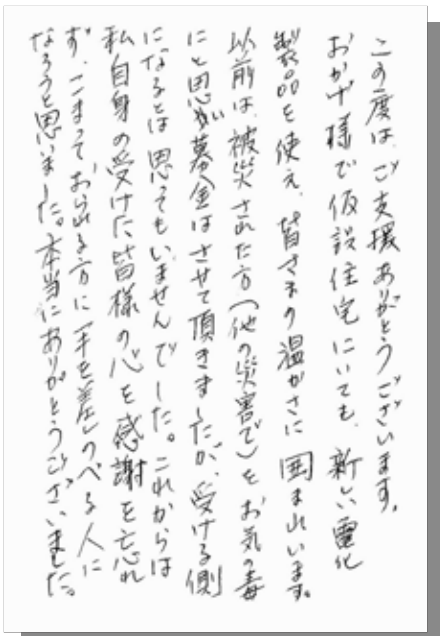
2024年は、支援に携わる者として、能登のことを考えない日は1日もありませんでした。

私たちAARは、志賀町・中能登町役場と協力し、両町の仮設住宅にお住まいの方を対象に家電配付事業を実施しています。家電のお申込みのお葉書には、自由記載のメッセージ欄を設けています。そこには、「大変な時の明るい知らせを有難うございます、ありがたく頂きます」、「御支援を有難うございます。家電製品は震災

で故障したり、家を解体する為処分して殆どありませんので助かります」などの感謝の言葉をいただき、日々私の活動の原動力となっていました。一方で、「先の事を考えると真っ暗です」「地震の被害で心がおれてしまいました」という言葉や、震災から半年の頃には、「時間だけ過ぎて風化してきて世間から忘れ去られているでしょう。近頃そう感じてしまいます」というメッセージも届きました。

9月には仮設住宅の談話室や集会場の備品を整備しました。やわやわ喫茶というサロン活動を始め、仮設住宅の皆さんと直接お会いする機会が増えました。発災後、どのように過ごしてきたかを話される方、サロン活動に参加することで生活に張りが出て嬉しいという方、毎晩、生きる希望がないと思って眠りにつくと話された方もいらっしゃいました。

あれから1年、少しずつだけれども変わっていく街並み、移ろう季節。目の前に映る景色は少しずつ復興へ進む中、心の復興は人それぞれだと痛感します。私たちはここにいるよ、あなたのこと忘れてないよ、そんな気持ちを持ちながら、2年目も支援活動に取り組んで参ります。



仮設住宅に住む方からいただいたお手紙

誰も取り残さない支援／コミュニティの強化

被災地全体の復興が途上である中、障がい者や高齢者、外国人の中には、新しい情報や支援から取り残されやすく、自力で生活を立て直すことが難しい方が多くいます。また、2024年11月下旬には、地震での「災害関連死」が「直接死」を上回り、コミュニティの再構築が急務となっています。

AARは今後、こうした方々へ支援を届けるとともに、コミュニティのつながりを強める活動に注力します。具体的には障がい福祉事業所の復旧・障がい者への個別支援／外国人向けの日本語教室の普及と防災ネットワークの構築／仮設住宅入居者や在宅避難者を対象とした交流サロン／孤立しがちな在宅避難者への支援、などを行います。2年目の活動にもご支援くださいますようお願い申し上げます。



国内災害担当
生田目 充

ご支援くださった企業・団体の皆さま (五十音順)

International Medical Corps / 株式会社エクセルシア / NTT DATA Business Solutions AG /
 MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社 / Audemars Piguet Foundation for Common Good /
 株式会社オートバックスセブン / カクセイ株式会社 / ゴールドマン・サックス・ギブズ /
 コストコホールセール 野々市 倉庫店 Costco Wholesale Japan Ltd. / The Mustard Seed Mission /
 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム / 全国友の会 / 宗教法人智恩寺 / 合同会社DIABLE /
 一般社団法人日本香港人協会 / 日本郵船株式会社 / 日本ロレックス株式会社 /
 公益財団法人野村生涯教育センター / パルシステム / ビーズ株式会社 /
 株式会社フェリシモ / Franklin Templeton / 株式会社フレクシェ / フロンティア株式会社 /
 MoneyGram International, Inc. / 三菱食品株式会社 / 株式会社ミリオンインターナショナル /
 株式会社モンベル / ヤマトエスロン株式会社 / 株式会社リベルテ / 有限会社隆太窯 / 霊友会 /
 レンドリース・ジャパン株式会社 / l'oro株式会社

※100万円以上のご寄付、物資支援、助成金をいただいた企業・団体名を記載しています。

会計報告

(単位：円)

収入(2024年1月1日～11月30日) 405,991,098

ご寄付..... 328,481,033

民間助成金..... 77,510,065

支出(2024年1月1日～10月31日) 172,959,284

炊き出し..... 80,753,076

緊急支援物資の配付..... 19,622,442

福祉施設/障がい者への支援..... 11,052,873

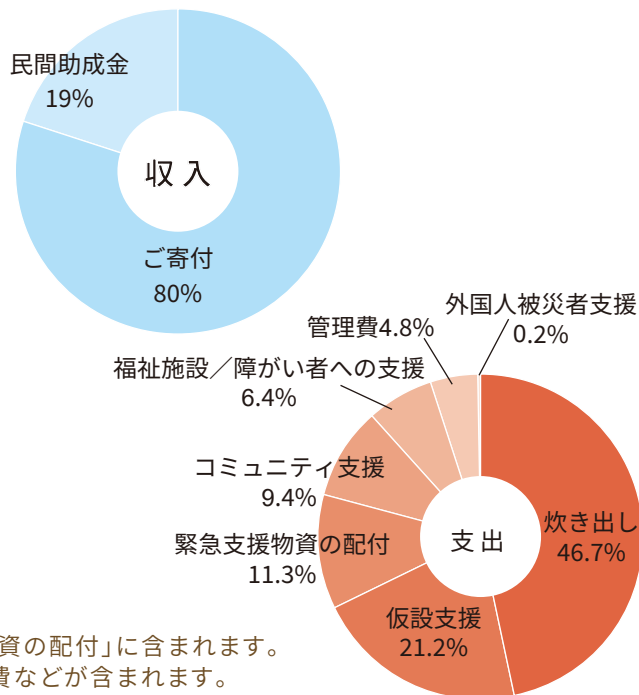
コミュニティ支援..... 16,205,742

外国人被災者支援..... 426,607

仮設支援..... 36,662,388

管理費..... 8,236,156

障がい者施設や外国人被災者への物資配付は、「緊急支援物資の配付」に含まれます。
 「管理費」には事務所の家賃や管理部門(総務・経理)の人件費などが含まれます。



Column 能登の宝 キリコ祭り



「能登のキリコ祭り」は、豊漁や豊作を祈願し、能登半島各地約200カ所で行われています。2024年は、奉納される燈籠の「キリコ」が津波で流されるなどして、中止や縮小を余儀なくされた祭りも多かったそうです。

写真の模型は、珠洲市の障がい者福祉事業所「すず樺」で制作されたもので、交流のある七尾市の事業所「ゆうの丘」の本田雄志理事長が、AARの活動のお礼にと、プレゼントしてくださいました。

模型を作っている方々も祭りの再開を心待ちにしているそうです。2025年は、能登半島の復興が進み、例年のように大きな燈籠が夏の夜空を照らすことを願います。(東京事務局 高木卓美)



石川県珠洲市で行われる「寺家キリコ祭り」
=写真提供:石川県観光連盟

協力し合いながらの1年:「ゆうの丘」とAAR

石川県七尾市の社会福祉法人「野の花福祉会」が運営する障がい福祉サービス事業所「ゆうの丘」(本田雄志理事長)とAARは、震災直後の1月3日にAARが支援物資を届けて以降、協力して活動しています。本田理事長は「AARは必要な物を的確にスピーディーに提供してくれる」と話します。

ゆうの丘では、10代から70代の知的・精神障がい者約30人が、自動車部品や菓子箱の組み立て、アルミ缶のプレス、菓子や乾燥シイタケの製造などの仕事をしていました。激しい揺れで施設周辺は断水し、建物も損壊。しかし、周辺道路は使用できたため、関連施設を救援物資の倉庫として提供してくれました。水・食料、下着、簡易トイレなどAARが集めた何百箱もの支援物資の積み下ろしを、職員の方々が手伝ってくれました。

利用者の生活再建には、仕事の再開が不可欠です。AARは菓子作りに使うミキサーを提供したほか、地割れし、段差ができたアルミ缶プレス作業場を新築。倒壊したシイタケ乾燥小屋も作り直しました。

11月13日、秋風のさわやかな好天の下、2棟の贈呈式が行われました。本田理事長の「地震で奪われた働く場をAARが再建してくれ、感謝に堪えません」との言葉に続き、利用者から「ありがとう」と元氣な声が響きました。



シイタケ乾燥小屋の完成を喜ぶ、「ゆうの丘」の皆さんと本田雄志理事長、AAR理事長の堀江良彰(いずれも手前中央)=2024年11月13日、石川県七尾市で



「ゆうの丘」の建物に運び込まれた支援物資 =2024年1月7日、七尾市で

ご支援の方法

マンスリーサポーターとして(継続的なご寄付)

毎月定額を継続的にご寄付いただくことで、AARとともに難民や被災者の方々に「支え続ける」ことができるしくみです。

お申し込みはホームページから、またはお申し込み用紙をご請求ください。



寄付をする

- クレジットカード AARのホームページより簡単に手続きいただけます。
- コンビニ払い
- 銀行振込



三菱UFJ銀行目黒支店 (普)4520323 難民を助ける会
三井住友銀行目黒支店 (普)1215794 難民を助ける会
みずほ銀行目黒支店 (普)1110211 難民を助ける会

銀行からのお振り込みは、ホームページの寄付画面からお申し込みください。直接銀行にお振り込みいただく場合は、こちらでお振り込み人名を特定できないため、お手数ですがお電話(03-5423-4511)でご連絡ください。

- 郵便振込 口座番号:00100-9-600(加入者名:難民を助ける会)

寄付額の最大約5割が戻ってきます。

AARは東京都により「認定NPO法人」に認定されており、ご支援くださる皆さまは、所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置を受けることができます。

遺贈・相続財産から寄付をする

ご自身の財産や相続された財産の一部をご寄付いただくことができます。お香典返しにAARのチャリティグッズをご利用いただくことも可能です。

ふるさと納税を通じて寄付をする

佐賀県へのふるさと納税を通じて、AARをご支援いただけます。寄付をしてくださった方には、佐賀県の特産品やAARオリジナル商品をお送りします。

法人サポーターになる(継続的なご寄付)

1口10万円以上のご寄付を通じて、AARの活動を長期的に支えてくださる企業・団体さまのための制度です。

認定NPO法人 難民を助ける会 www.aarjapan.gr.jp

〒141-0021

東京都品川区上大崎2-12-2 ミズビル7F
TEL.03-5423-4511 FAX.03-5423-4450

〈佐賀事務所〉

〒840-0826 佐賀県佐賀市白山1-4-28 佐賀白山ビル303号室
TEL.0952-37-5380 FAX.0952-37-5381



@aarjapan



@aarjapan



@aar_japan/



@134gqcky